

秋田県

秋田県総合保健事業団 疾病登録室
戸堀 文雄



▲疾病登録室での実務研修の様子

① 歴史

秋田県のがん登録は1986年に子宮がん登録が試行的に行われていましたが、当初から登録率が低迷し10年後に一旦終了しました。1996年に胃がん登録が秋田県胃がん登録委員会の指導のもと開始され、2002年からは大腸がん登録が追加されました。その後秋田県医師会からがん対策の基礎資料としての全がん登録の要望があり、2006年に新たに地域がん登録委員会が発足しました。当初は独自の登録票が設定されたのでそれに合わせて登録システムを内製しました。しかし標準システムが開発され全国的に普及しつつあったこともあり、秋田県でもその導入については当初から検討してきていました。2009年3月には山形県を視察し、その際には味木先生、柴田先生から説明をいただき標準システムの有効性を確認しました。2010年に地域がん登録委員会で標準データベースの導入が決定され、2011年9月導入研修を行って現在移行作業中です。

② 登録室の紹介

登録の主体は秋田県ですが登録の実務は秋田県総合保健事業団に委託され秋田県総合保健センターの疾病登録室で行われています。疾病登録室は秋田駅より徒歩5分、佐竹家が藩主の久保田城があった千秋公園に隣接する良好な環境に立地する秋田県総合保健センターの3階にあり、同じ階に秋田県薬剤師会、4階に秋田県医師会、5階に秋田県看護協会など医療関係の団体があります。登録室の実務は非常勤職員が担当しており佐藤職員、原田職員の通常2名体制ですが、今年度は標準データベース移行のための大瀧職員、加藤職員の2名を増員し4名体制で行っております。また2010年10月には日本公衆衛生学会が秋田市であり、その際には全国初めての取り組みとして地域がん登録全国協議会と秋田県、秋田県地域がん登録委員会、疾病登録室が協働で作成したポスターを展示しました。

③ 登録状況

全がん登録を開始した2006年からこれまで届出がなされた登録票は74,272枚になっています。重複などを除いた各年毎の登録数は2006年 6,035件、2007年 7,646件、2008年 8,109件、2009年 7,979件、2010年 8,203件と毎年着実に増えております。また協力医療機関数も2006年325機関、2010年348機関と僅かではありますが増加し、県内医療機関にも地域がん登録の重要性の認知が

進んでいるように思います。2010年までの届出の状況は集計して秋田県医師会雑誌に報告し、またWeb上の公開もしております。またこれまで死亡転写票に基づくがんを20,321件、非がん47,042件処理し、その後医療機関に廻り調査をお願いして補充登録をしています。2006年のDCN率は14.8%、DCO率は6.8%と全がん登録開始してから間もない状況では良好な成績と考えていますが、今後ともより精度の高い登録を目指して努力したいと思います。

④ 秋田県地域がん登録の問題点と課題

問題点としては秋田県では県独自の医療圏別拠点病院を含めたがん診療拠点病院が11施設あり、ここからの登録が約8割を占めておりますが、各病院の院内がん登録の体制に差があり病院の規模に比べて登録数が少ないところがあることや原発部位別に登録のばらつきがあること、また2008年に届出された数を保健所毎の対人口比でみると0.89%から0.34%まで2倍以上の差がみられるなど登録率に地域差が著しいことがあげられます。また、5年が経過し生存率も調査した腫瘍登録報告書の作成を目指しており、生存確認の方法を登録委員会で協議している段階で遅れていることが課題として挙げられます。

⑤ 最後に

まだまだ駆け出しの秋田県登録室ではありますが、各医療機関・県担当とそれぞれの問題点や改善点を話しあいつつ、明るく楽しく仲良く元気に頑張っていきたいと思っています。これからもご助言・ご指導をどうぞよろしくおねがいします。

komedokoro



namahage



kiritanpo

akita